

第56回



JINNO INTERNATIONAL COOPERATION JSC

Jinno International Cooperation JSCは、日本の学校法人神野学園とベトナム企業との合弁企業で、首都ハノイにて日本語とベトナム語を学べる「Pacific Language Center」を運営しています。

日本の神野学園は愛知県名古屋市に法人本部があり、岐阜県内に「岐阜医療科学大学」、「中日本航空専門学校」、「中日本自動車短期大学」という3つの大学、専門学校、短期大学を約50年に渡り運営しています。また、海外からの留学生も積極的に受け入れています。

そんな日本の学校法人がハノイに作った日本語センター「Pacific Language Center(以下、PLC)」について、佐藤健司代表にお話を伺ってきました。

●事業内容

日本語学校およびベトナム語学校の運営

●JINNO INTERNATIONAL COOPERATION JSC
38b Trieu Viet Vuong, Bui Thi Xuan,
Hai Ba Trung, Ha Noi, Vietnam

●日本(法人本部)

愛知県名古屋市東区泉1-23-37

●ホームページ

<http://study-japan.edu.vn/>



ーベトナム進出の経緯を教えてください。

近年、日本へ留学する外国人の中で、中国人留学生を凌ぐ勢いでベトナム人留学生が増えて来た事がベトナムへ進出した大きな理由の一つです。

元々、神野学園では、約8年前からベトナムで留学生の募集や現地の大学と業務提携を行うために来越していました。主要な業務提携先としては、ハノイ市のThanh Do大学、ASEAN短期大学があり、それらの学校から留学生の受け入れを行ってきました。神野学園の運営する日本の学校は、全て技術系の学校ですが、卒業後国家資格を取得する為には、技術の知識だけではなく高い日本語能力も要求されます。そこで、留学前から基礎的な

日本語能力をしっかりと教育し、日本への留学後もスムーズに授業に参加でき、卒業後の資格取得も視野に入れたベトナムでの日本語教育が必要と考え、ベトナムに日本語学校を設立することになりました。

ーベトナムでの業務内容を教えていただけますか？

現在、ベトナム人への日本語教育と日本人へのベトナム語教育を大きな柱としています。また、他の日本語学校とは一線を画すところですが、日本語検定N2、N1保持者を対象にしたビジネスマナー(挨拶から、メールの送り方)や日系企業での働き方の教育を行っていき、日系企業が望んでいる即戦力として働ける人材の育

成をしていきたいと考えています。

ーベトナム人学生への評価についてはいかがですか？

とても勉強熱心だと感じています。日本人は他の国から、まじめで勤勉な人が多いと言われていますが、ベトナム人にも同じ様なイメージを持っています。また、分からない事があると積極的に質問してくる学生が多く意欲的だと思います。

ー学校の教育で気をつけている点はいかがですか？

語学の勉強はどうしても、本人のやる気や楽しさがないと続かないので、学生が求めているものを尊重し、こちらから押し



教室



授業の様子



ディスカッションの様子

付けるのではなく自主的に学んで頂く環境作りを心がけています。

—どんな人材を社会に送り出したいとお考えですか？

現在の企業側が求める人材のレベルはかなり高いものになっていると感じています。

以前であれば、N2・N1を持っていて、ある程度日本語が喋れば採用していたところも多かったと思います。しかし、採用後に時間と費用を掛けて育てても、育った頃に辞めてしまうというジレンマが続き、非常に効率が悪いと感じている様です。その為、現在では、日系企業での働き方、企業文化、企業理念、ビジネスマナーを理解した即戦力の人材が求められていると強く感じています。

PLCでは、こういった日系企業様の要望に応えられる教育カリキュラムを作成し、ビジネスマナー（日本式のメールの送り方等）コースを設けて人材教育を行い、社会に送り出せればと思っております。

—今後のベトナムでの展開について

現在はハノイ校のみですが、将来的にはダナン校、ホーチミン校と各地域で開校できればと考えています。また、幼稚園から大学までの一貫教育ができればとも考えています。



教室

さらに、日本の神野学園が専門としている医療、航空、自動車などの学校をベトナムを中心に東南アジアで教育事業を展開していければと考えています。

自動車については、現在ベトナムでは自動車の普及が急速に進んでおり、2018年のASEAN域内の自動車関税撤廃後には更に自動車の数が増えると予想されています。それに伴い自動車整備士の人材育成の需要が急速に高まると思います。その際、日本で培われた自動車整備士の教育カリキュラムが役に立つのではない

かと考えています。また、元々中日本自動車短期大学では、大手自動車メーカーをはじめとして自動車関連企業に多くの人材を送り出してきた実績があり、ベトナムでも企業が望む優秀な人材を育成し、日系企業様へ紹介ができればと考えています。

次に医療についてですが、岐阜医療科学大学で培った教育ノウハウを基に、ベトナムでの医療教育の環境整備に貢献できればと考えています。

上記展望はあくまで今後の中長期計画の中で考えている事であります。まずは9月3日にオープンしたばかりの日本語学校で質の高いサービスと教育をしっかりと行っていきたく思います。

最後になりますが、ここは日本ではなく異国の地ベトナムであり、日本と違うのは当たり前であることをしっかりと意識して、ベトナム特有の文化等を受け入れながら、日本の良い所と、ベトナムの良い所をMIXし、より良い会社、学校にして行かなければいけないと感じています。

—ありがとうございました。



PLCスタッフ集合写真